

1 学校のミッション（使命、存在意義）
高度な知識と幅広い教養を培う県立中等教育学校として、課題解決型学習等に取り組み、主体性や協調性、粘り強い心等を高める6年間の一体的な学習活動や体験活動等を通して、地域社会や国際社会を牽引するリーダーとして、その発展に貢献する人材の育成を目指す。
2 現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）
（1）リーダー育成 ・白鷺祭改善委員会（旧リーダー研修会）を実施し、生徒主体で学校行事を見直し、次年度に向けて改善点を協議することができた。 ・生徒会を中心とした育成だけでなく学校生活のいろいろな場面でのリーダー育成が今後の課題である。 （2）学力向上 ・生徒・保護者の学力向上に関する満足度は高く、各教科の学習や、総合的な学習・探究の時間を通じて、高い学力をつけることができた。 ・総合的な学習・探究の時間については、教科の授業との連関の強化、Chromebookの活用については、先進的な取組を紹介するなど、教員が学力向上を実感できるようにすることが課題である。 （3）心の教育 ・特別の教科「道徳」や学年を越えて活動する異学年交流を通じて、自分自身を見つめたり、他者との関係を考えたりすることができ、発達段階に応じた心の成長を遂げることができた。 ・「あいさつ」に関する項目の数値が、他の項目の数値より低いので、まずは教員が率先してあいさつを行うとともに、生徒会や各種委員会と協力して互いに気持ちのよいあいさつを交わす雰囲気醸成することが課題である。 （4）外部連携 ・教育相談において、外部機関との連携を図りながら、校内で組織的に情報共有のシステム作りができた。 ・その他の領域においても、積極的に外部機関と連携をとり、教育内容の充実と、社会に開かれた学校づくりに努めることが課題である。 （5）業務改善 ・自動採点システムやICT機器の積極的活用により、負担軽減に繋がった。 ・考査や行事が集中する6月、10月の業務負担軽減が今後の課題である。各係の業務負担の軽重を年間を通じて把握し、課を越えて相互に協力することで業務の平準化をはかる。
3 ミッションの追求を通じて実現しようとするビジョン（目指す姿）
・高い目標を持ち、その目標の実現に向けて主体的に取り組むことができる生徒。
・協調性を備え、課題の解決や共通の目的達成に向けて協働できる生徒。
・豊かな教養と品性を備え、持続可能な社会の構築に寄与するリーダーとして活躍できる生徒。

自己評価							5 学校関係者評価	
評価領域	重点目標	課題解決に向けての取組（具体的方策）	評価基準	達成度（中間）	達成度（最終）	達成状況の診断・評価	取組状況に関する意見・要望等	評価
リーダー育成	チームをつくる ことができる人 を育てる。	（生徒課）生徒会執行部を中心に、学校行事の企画・運営に対してリアクションからアクションへの転換を図る。学校行事や委員会活動に積極的に取り組む姿勢と、仲間と協力し合いながら参加する態度を育成する。	①生徒会執行部による振り返り ②全生徒対象に各行事ごとにアンケート（生徒課作成）を実施し、「学校行事に積極的に参加し、仲間と協力できたか」の問いに対して、「よくできた」「できた」と回答した割合の平均が、 A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	A	A	生徒会執行部の振り返りでは、「白鷺祭」や「スマホ相談会」等の行事を通じて、「生徒の自主的な取組」に対する手応えや満足感が感じられた。生徒対象アンケートの結果はいずれも「よくできた」が90％を大きく上回っている。	・生徒の自主的な活動の様子が伺えて、成果が上がっている。 ・ここ数年で学校の雰囲気 がさらに良くなり、教職員の中にゆとりができて、そのことが次のチャレンジに繋がっていると感じる。 ・今年度評価がAだった項目を中心に来年度に継続しないものをピックアップし、課題解決に向けての具体的な取組を新たに設定してほしい。	A
		（学年主任・基礎期）学級活動や学年・学校行事において、さまざまな役割があることを自覚し、各々の立場で協力し合えるように、話し合いや活動を計画的に行う。	基礎期の全生徒対象にアンケートを実施し、「学級活動や行事に積極的に参加し、仲間と協力できたか」の問いに対して、「よくできた」「できた」と回答した割合が、 A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	A	A	回答は、前回アンケート時と同じ90％であった。今後は学校生活や学年行事で生徒一人ひとりがリーダーシップを発揮できるよう働きかけていきたい。		
		（学年主任・充実期）学習・学級活動や行事において、学校・学年・クラスが活性化するように行動目標を生徒1人1人が持てるよう働きかける。	充実期の全生徒対象にアンケートを実施し、「学校・学年・クラスの活性化を目指して積極的に行動することができたか」の問いに対して、「よくできた」「できた」と回答した割合が、 A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	A	A	回答は91→93％となり、3年生は海外研修準備、4年生は充実期の終わりに向けて、集団がよりよくなるような言動が多くみられた。今後も学校の活性化に貢献できる生徒の育成を目指す。		
		（学年主任・発展期）白鷺祭において、発展期の生徒が協力してブロック全体を盛り上げていく体勢を整えるよう、放課後や休日の準備時間や日程をブロックごとに設定する。監督教員をブロック単位で配置し、効率的な運営を図る。	①白鷺祭後の生徒アンケート（生徒課作成）による満足度 A 90％以上 B 80％以上90％未満 C Bに満たない ②8-9月の教員の時間外在校等時間の平均（5・6年団） A 45時間未満 B 45時間以上80時間未満 C Bに満たない	A	A	①A(90％以上) 来年度は体育の部の実施場所変更（予定）の関係で、5・6年生が臨機応変に対応して1～4年生を導くことができ、生徒が満足のいく活動ができるよう、計画する必要がある。 ②A(42.5時間) 個人の差はあるものの、全体としてはうまく分担ができたと思われる。		
学力向上	課題解決をするための思考力・判断力・表現力や、主体的に学びに向かう態度を育成し学力の向上を図る。	（教務課）授業中の取組や定期考査の中で「思考・判断・表現」の観点を評価する問題について各教科で集約・分析することで、大安寺の「思考力・判断力・表現力」の在り方を考え、教科で共有する。	教員を対象としたアンケート「教科として、大安寺の「思考力・判断力・表現力」の在り方を考え共有できた。」という問いに対して、肯定的回答が、 A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	—	B	「共有できたと思う」が23.3%、「やや共有できたと思う」が51.2％で肯定的回答は74.5％であった。年度当初には教科主任に呼びかけをしたが、その後の定期的な呼びかけや確認が不十分であった。	・授業に関するアンケートでは、教員と生徒・保護者の回答に差があるので、学習者理解（生徒のつまずきを見取る）を中心に据えた授業改善を進めてほしい。 ・上位者だけでなく、すべての学力層の生徒に対して、学習意欲が高まるような授業改善が必要である。	A
		（進路指導課）高い進路目標を持ち、それに向けて主体的に取り組むことができるように、進路学習の機会を設け、進路情報の提供をする。	・6年生の進路希望において、難関大学の志望者が学年の A 50％以上 B 40％以上50％未満 C Bに満たない ・6年生の11月マーク模試5教科総合で、国立大学合格ライン（全国偏差値52以上）の生徒の割合が、 A 80％以上 B 70％以上80％未満 C Bに満たない	—	A	11月ベネッセ駿台共催マーク模試(141名受験)における難関10大学と医学科の志望者は85名(60.3%)。全国偏差値52以上の人数は116名(82.3%)。		
		（学習指導委員会）質の高い授業が実施できるように、互見授業の実施方法を工夫し、教師の指導力の向上を図る。	学校評価アンケートの授業の指導内容や指導方法に関する項目において肯定的回答が A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	A	A	生徒の回答では当てはまる66%、やや当てはまる32%（第1回62%、36%）、教員の回答は当てはまる60%、38%（第1回と同じ）と肯定意見は100%近い。来年度はさらに「当てはまる」の回答をさらに増やしていきたい。		
心の教育	自律を促し、自分の生き方を考え、互いに敬愛し合う人を育てる。	（生徒課）あいさつや身だしなみなどの基本的な生活習慣を確立させるとともに、ルール、マナーの指導を徹底する。さらに、生徒会執行部をはじめとする生徒の自主的な委員会活動を通して、生徒の自治的な取組を推進する。	①生徒会執行部、各種委員会による振り返り ②生徒・保護者対象の学校評価アンケートで「社会のルールや日常生活のマナーについての指導が十分に行われている」の問いに対して、「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した割合の平均が A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	A	A	①「大安仁の日」をはじめ、特に前期で委員会活動が活発に行われた。 ②保護者アンケートを除き、生徒、教員ともに90％をこえた。学校で生活を共にする全員が気持ちよく過ごせることを第一に、互いの気づきを大切にする指導を継続する。	・道徳教育は後期課程も含めて、すべての生徒に対して行うものなので、後期課程の生徒に対してもアンケートを実施した方がよい。 ・「礼儀」や「マナー」の指導に加えて、大安寺生としての「哲学」や「倫理観」を醸成するような取組を期待する。	A
		（教育相談室）心の教育に関する生徒・教職員対象の研修をそれぞれ実施し、生徒対象では「心の健康サポート」、教職員対象では「グリーゾーンの生徒への対応」について理解を深め、実践力を高める。	研修後のアンケートで、「とても役に立った」「役に立った」の評価が全体の A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	A	A	職員研修の事後アンケートでは、「ニーズに合っていた」と答えた教員が100%、生徒対象の講演会の事後アンケートでは、「役に立つ」と答えた生徒が、4年生で94.5%、5年生で93.9％であった。どちらも好ましい回答が得られたので、来年度もまた、内容を検討し、より役に立つ研修や講演会が実施できるようにしたい。		
		（道徳教育推進委員会）道徳の授業では、問題解決型の道徳授業を構想し、導入・実践していく。また、評価についての研修を行い、教職員全体において共通理解を図る。	年度末に行う道徳アンケートで、肯定的な評価が A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	—	A	生徒対象の道徳アンケートは、どの項目においても肯定的評価が90％近くに達している。 教職員対象の研修については、「模擬授業を通して、問題解決型の道徳の授業について以前よりも具体的なイメージがもてた」「評価記述の仕方はテンプレートが使いやすく、分かりやすかった」という感想が得られた。ただし、日程の都合上、教職員の参加率が低下した点が課題である。		
外部連携	地域や企業等の外部人材や、保護者・同窓生等との連携を深め、社会に開かれた学校をつくる。	（進路指導課）各学年で外部講師を招き、進路講演会を実施するとともに、前期課程では、1年次「プロフェッショナルに聴く」、2年次「チャレンジワーク」を通して保護者や企業との連携を図る。	それぞれ参加生徒にアンケートを行い、肯定的評価が A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	—	A	1年生「プロフェッショナルに聴く」：大変参考になった：66.2% 少し参考になった：32.5% 2年生「チャレンジワーク」 大変参考になった：74.5% 少し参考になった：25.5%	・次年度に向けて、外部連携も含めた「防災教育」を進めてほしい。 ・まずは、災害が起きたときの防災について、具体的な内容を教職員で考えて、マニュアル作りや保護者との共有をしてほしい。	A
		（厚生課）避難訓練実施の際に、講師を招くなど外部機関と連携することで、安全教育の充実を図る。	外部機関と連携した避難訓練の実施回数が、年間で A 2回以上 B 1回 C Bに満たない	—	C	1学期、2学期に各1回の避難訓練を実施したが、外部機関との連携ができなかった。次年度に向けて、早期の計画立案が必要である。		
		（グローバル教育推進室）海外研修の事前学習とグローバル教育を推進するために、外部人材を講師に招いて各学年に応じた研修会や講演会を実施する。	事前学習や講演会後にそれぞれ参加生徒にアンケートを行い、満足度が A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	A	A	スタンフォード学生の講演会、韓国高校生文化発表、外務省「高校講座」実施後のアンケート結果、満足度の平均が88.7％である。		
業務改善	業務を、組織の視点及び個人の視点から見直し、効率的な学校運営を行う。	（教務課）開校以来行われてきた業務を懐疑的に捉えることで、その業務の必要性を再検討するとともに、実施する場合には、その規模を効率的に行う方法を考えることで、業務のスリム化を行う。	業務に携わる教員・生徒の人数を減らし、効率的に運営できるようになった業務が、年間で A 3個以上 B 1～2個 C Bに満たない	—	A	10月の入学者選抜説明会、1月の入学者選抜、入学手続き、3月卒業証書授与式において、大幅に実施形態を変更し、生徒、教員ともに、携わる人員の数を減らすことができた。	・単に「業務負担の軽減」というだけでなく、その結果生まれた時間や余力を「生徒に向き合う時間」に充てる」という考え方に感銘を受けた。 ・前年踏襲になることなく、常にチャレンジしている姿勢が評価できる。 ・教職員の「働きがい」を大切にして、業務改善を進めてほしい。	A
		（ICT管理室）昨年度からのペーパーレス化をさらに進めるとともに、教員間や生徒との情報共有を図るための掲示板の整備を進めていく。	教職員・生徒向けのアンケートで、情報共有が便利になったと回答した人数が A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	—	A	情報共有のための教職員向け掲示板については、便利になったと回答された方が96％となり、ペーパーレス化も含め定着が図られた。生徒向けについては、活用している生徒は便利になったとの回答が80％あるが、周知不足から活用できていない生徒もいるため周知・改善に努める。		
		（管理職）各課の業務内容を洗い出し、絶対に必要な業務の仕分けをして、業務のスリム化を図る。生徒・保護者へのアンケートについても調査し、同じような内容のアンケートは集約してデータを共有化する。	学校評価アンケートの「学校運営組織は、業務遂行のために適切である。」の問いに対して、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合が、 A 80％以上 B 60％以上80％未満 C Bに満たない	B	B	学校評価アンケートの結果が、第1回75%、第2回77％と微増した。業務のスリム化に関してはまだ改善の余地があるので、引き続き業務の仕分けをしていく。生徒・保護者アンケートの集約については、調査をした結果、目的に応じて時期等を考慮して実施する必要があるので、集約は難しいことがわかった。		

6 学校評価の総括（取組の成果・次年度への改善策）
〈取組の成果〉
・学校行事や生徒自ら企画する取組を通じて、生徒が自主的に活動する場面が多く見られ、生徒が充実感をもって学校生活を送ることができた。
・各行事における業務を精選・再構成し、人員の削減や業務負担の軽減ができた。また、ペーパーレス化やICTの活用を促進し、情報共有の利便性が向上した。
・評価項目を精選したことにより、目標や課題が焦点化された。また、資料の様式を整理したことで資料が見やすくなり、その結果、目標や課題の共有が促進され、委員から具体的な助言を得ることができた。
〈次年度への改善策〉
・教科内の連携強化、指導力向上のために、年度当初や毎学期等に教科で情報共有する機会を設ける。
・外部機関と連携をする際には、事前に関係機関との連絡を密にし、ゆとりをもって計画・実行できるようにする。
・評価基準が定量的指標（数値目標）だけの項目が多いので、定性的指標（生徒の様子の見取りやアンケートの記述等から評価する）も取り入れて、多角的に評価をする。